

2022 年度 大同病院  
歯科医師臨床研修プログラム



大同病院  
歯科医師臨床研修管理委員会

# 大同病院 歯科医師臨床研修プログラム

## 1. プログラムの名称

大同病院歯科医師臨床研修プログラム

プログラム責任者：今井 隆生（歯科口腔外科部長）

## 2. 研修実施施設

### (1) 施設名

社会医療法人宏潤会 大同病院

### (2) 所在地

愛知県名古屋市南区白水町9番地

### (3) 施設長

院長：野々垣 浩二

### (4) 施設の概要

（巻末の「大同病院の概要」に詳細を記載）

### (5) 施設の特徴

名古屋市市街地南端の南区に在り、名古屋市及び知多半島医療圏を診療範囲とした第二次救急医療施設で、高度医療を提供している。名古屋鉄道柴田駅徒歩4分の交通至便な位置に立地している。

### (6) 当院が認定を受けている歯科関係の学会等

名古屋市歯科医師会医療連携実施協定

日本口腔外科学会認定研修施設

日本老年歯科医学会認定研修機関

日本障害者歯科学会臨床研修施設

日本口腔顔面痛学会研修施設

日本口腔ケア学会認定口腔ケア施設

日本小児口腔外科学会認定研修施設

## 3. 標榜科

歯科口腔外科、歯科

## 4. 指導歯科医

歯科口腔外科部長 今井 隆生（プログラム責任者、歯科医師臨床研修指導歯科医）

歯科口腔外科医長 片浦 貴俊（歯科医師臨床研修指導歯科医）

## 5. 研修期間

2022年4月1日から2024年3月31日までの2年間

## 6. 研修歯科医の処遇

- (1) 身分 常勤
- (2) 給与 基本給 320,000 円/月 (1 年次)  
350,000 円/月 (2 年次)  
賞与 600,000 円/年
- (3) 勤務時間 午前 8 時 30 分～午後 5 時 (土曜日は午後 2 時まで)
- (4) 時間外勤務 なし
- (5) 宿日直 なし
- (6) 休日及び休暇 指定休 2 日/月、夏期休暇 6 日/年、年末年始休暇、年次有給休暇
- (7) 宿舎 あり (病院より徒歩 5 分、家賃無料)
- (8) 研修医室 あり (医局内に占有の机あり、医科研修医と共有の休憩室あり)
- (9) 保険 社会保険 (健康保険、厚生年金保険、労災保険、雇用保険) あり
- (10) 健康管理 職員健康診断 年 2 回
- (11) 歯科医師賠償責任保険 病院において加入
- (12) 外部の学会・研究会 出席可 (年 2 回 公費で参加可能)
- (13) 保育施設 院内 24 時間保育所、病児保育あり

## 7. 定員、募集方法及び選考方法

- (1) 定員 : 1 名
- (2) 公募方法 : 歯科医師臨床研修マッチングによる
- (3) 選考方法 : 面接試験

## 8. 研修修了後の進路

研修修了後、本人が希望する場合はさらに2年間の研修が可能である。また、引き続き大学病院での研修を希望する者は関連大学病院へ紹介する。

## 9. 歯科医師臨床研修の概要

歯科医師臨床研修の目標は、患者中心の全人的医療を理解し、すべての歯科医師に求められる基本的な診療能力 (態度、技能及び知識) を身に付け、歯科医師生涯研修の第一歩とすることである。

## 10. 歯科医師臨床研修のねらい

- (1) 歯科医師として好ましい態度・習慣を身に付け、患者及び家族とのより良い人間関係を確立する。
- (2) 全人的な視点から得られた医療情報を理解し、それに基づいた総合治療計画を立案する。
- (3) 歯科疾患と障害の予防及び治療における基本的技能を身に付ける。
- (4) 一般的によく遭遇する応急処置と、頻度の高い歯科治療を確実に実施する。
- (5) 歯科診療時の全身的偶発事故に適切に対応する。
- (6) 自ら行った処置の経過を観察、評価し、診断と治療に常にフィードバックする態度・習慣を身に付ける。
- (7) 専門的知識や高度先進的歯科医療に目を向け、歯科医師生涯研修の意欲への動機付けをする。
- (8) 歯科医師の社会的役割を認識し、実践する。

## 11. 当研修プログラムの特徴

歯科医療はますます高度化・複雑化し、国民は質の高い歯科医療を求めている。一方で超高齢社会を迎え、重症または慢性の内科的疾患のある患者(有病者)が歯科に受診する機会が増えている。

高度な歯科医療も、基本的な歯科診療技術を積み上げた上で提供できるものであり、基礎を確実に身につけ、プライマリ・ケアに充分対応しうる歯科臨床医を養成することが必要不可欠である。

高齢者・有病者に対しては、患者の全身状態を把握した上で、安全かつ十分な歯科医療を提供する必要がある、患者本人・家族及びかかりつけ医師をはじめ多種類の医療従事者及び福祉関係者とのコミュニケーションが必要である。

当院の研修期間は2年であり、1年次には各医科診療科または歯科口腔外科をローテーションする。2年次には院内麻酔科の協力を得て、「歯科医師の医科麻酔科研修ガイドライン」に基づいた、全身麻酔研修及び気管挿管実習を行う。麻酔科、救急を研修したのち、歯科研修に移行する。

近年重要視されている周術期口腔機能管理や訪問歯科診療も医科との連携なくしては行えない。患者を全人的に捉えて、歯科医療を提供するのが歯科医師の任務である。歯科医師生涯研修の第一歩を病院歯科で学び、実践するのが当研修プログラムの特徴と言える。

また、当院は中規模総合病院であるために肩肘張らずに他の診療科医師と気楽に交流することができ、医学的知識も自ずと向上する。

## 12. 教育課程

### (1)1年目（医科系研修、歯科口腔外科研修）

約1週間の基本研修後、内科（総合内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、神経内科、膠原病・リウマチ内科、糖尿病・内分泌内科、血液・化学療法科）救急科、麻酔科、小児科、産婦人科、外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、病理診断科を2～4週間研修する。（研修期間・診療科は研修医の希望を考慮する）

医科研修時の医行為は、当院の「医学生の臨床実習において、一定条件下で許容される基本的医療行為の事例」（別掲）に従う。

### (2)2年目（麻酔科、救急、歯科口腔外科研修）

麻酔科を16週間・救急を4週間研修し、残りの期間を歯科口腔外科研修とする。麻酔科及び救急研修時の医療行為は、「歯科医師の救命救急研修ガイドライン」「歯科医師の医科麻酔科研修のガイドライン」（別掲）に従う。

## 13. 到達目標

### (1)基本習熟コース

医療人としての必要な態度や知識を含め、基本的な歯科診療に必要な臨床能力を身に受ける。これについては、研修歯科医自らが確実に実践できることが基本である。

### (2)基本習得コース

歯科医療の進歩向上に対応できる資質の向上を目指す。生涯にわたって有益となる歯科医師研修を行うために、より広範囲の歯科医療についての知識、態度及び技能を習得する。この中には全身疾患に対する理解及び救急・救命処置についての知識、技能が含まれる。

これらは臨床研修修了後にさらに習熟する必要がある、その第一歩として歯科医師臨床研修で幅広く経験することが必要である。

## 1. 歯科医師臨床研修 「基本習熟コース」

### 【一般目標】

個々の歯科医師が患者の立場に立った歯科医療を実践できるようになるために、基本的な歯科診療に必要な臨床能力を身に付ける。

### (1) 医療面接

#### 【一般目標】

患者中心の歯科診療を実施するために、医療面接についての知識、態度及び技能を身に付け実践する。

#### 【行動目標】

- ② コミュニケーションスキルを実践する。

- ②病歴（主訴、現病歴、既往歴及び家族歴）聴取を的確に行う。
- ③病歴を時系列に沿って、正確に記録する。
- ④患者の心理・社会的背景に配慮する。
- ⑤患者・家族に必要な情報を十分に提供する。
- ⑥インフォームドコンセントに基づき、患者の自己決定を尊重する。
- ⑦患者のプライバシーを守る。
- ⑧患者の心理におけるQOL（Quality Of Life）に配慮する。
- ⑨患者教育と治療への動機付けを行う。

## （2）総合診療計画

### 【一般目標】

効果的で効率の良い歯科診療を行うために、総合診療計画の立案に必要な能力を身に付ける。

### 【行動目標】

- ①適切で十分な医療情報を収集する。かかりつけ医からに対し、診療情報提供を求める。
- ②基本的な診察・検査を実践する。
- ③基本的な診察・検査の所見を判断する。
- ④得られた情報から診断を行う。必要場合は鑑別診断を列記する。
- ⑤適切と思われる治療法及び別の選択肢を提示する。
- ⑥十分な説明による患者の自己決定（インフォームドコンセント）を確認する。
- ⑦一口腔単位の治療計画を作成する。

## （3）予防・治療基本技術

### 【一般目標】

歯科疾患と機能障害を予防・治療・管理するために、必要な基本的技術を身に付ける。

### 【行動目標】

- ①基本的な治療法の手技を模型を用いて実習する。
- ②基本的な予防法の手技を実施する。
- ③基本的な治療法の手技を実施する。
- ④医療記録を適切に作成する。
- ⑤医療記録を適切に管理する。
- ⑥個人情報の取り扱いに配慮する。

## （4）応急処置

### 【一般目標】

一般的な歯科疾患に対処するために、応急処置を要する症例に対して、必要な臨床能

力を身に付ける。

**【行動目標】**

- ①痛みに対する基本的な治療を実践し、患者の苦痛を取り除く。
- ②修復物・補綴装置などの脱離と破損及び不適合に対する適切な処置を実践する。
- ③歯、口腔及び顎顔面の外傷に対する基本的な治療を実践する。
- ④重症度を判断し、必要な場合は上級歯科医、医科及び高次医療機関に依頼または転送する。

(5) 高頻度治療

**【一般目標】**

一般的な歯科疾患に対処するために、高頻度に遭遇する傷病に対して、必要な臨床能力を身に付ける。

**【行動目標】**

- ①齲蝕の診断及び基本的な治療を実践する。
- ②歯髄疾患の診断及び基本的な治療を実践する。
- ③歯周疾患の診断及び基本的な治療を実践する。
- ④抜歯の適応症の診断及び基本的な手技を実践する。
- ⑤咬合・咀嚼障害の診断及び基本的な治療を実践する。
- ⑥口腔外科疾患に対する診断及び初期的な治療を実践する。

(6) 医療管理・地域医療

**【一般目標】**

歯科医師の社会的役割を果たすため、必要となる医療管理・地域医療に関する能力を身に付ける。

**【行動目標】**

- ①保険診療を実践する。
- ②チーム医療を実践する。
- ③地域医療に参画する。

(7) 周術期口腔機能管理

**【一般目標】**

周術期口腔機能管理は、医科において癌に対する手術療法・放射線治療・化学療法を受ける患者または心臓手術を受ける患者に対し、治療前後に歯科が介入することによって、さまざまな合併症の発症率を下げ、患者を早期社会復帰させるためのものである。

歯科医師として周術期口腔機能管理を的確に行う能力を身に付ける。

### 【行動目標】

- ①医科で治療を受ける癌または心臓疾患について理解し、説明する。
- ②医科手術、放射線治療、化学療法の内容及び副作用について理解し、説明する。
- ③医科治療前の患者の口腔内の状態を検査、診査して評価する。
- ④周術期口腔機能管理の方法について説明し、実践する。
- ⑤医科治療後の患者の口腔内の状態を検査、診査して評価する。
- ⑥放射線性口内炎、抗癌剤性口内炎の管理を実践する。

## 2. 歯科医師臨床研修 「基本習得コース」

### 【一般目標】

生涯にわたる歯科医師研修を行うために、より広範囲な歯科医療について知識、態度及び技能を習得する。

#### (1) 救急・救命処置

### 【一般目標】

歯科診療を安全に行うために、必要な救急・救命処置に関する知識、態度及び技能を習得する。

### 【行動目標】

- ①患者の全身及びバイタルサインを観察し、異常を早期に察知する。
- ②患者の既往歴・病歴を聴取し、歯科診療に問題となる全身疾患を評価する。
- ③服用薬剤の副作用を判断し、歯科診療に関連する注意点を説明する。
- ④全身疾患の歯科診療上のリスクを説明する。
- ⑤歯科診療時に全身的合併症への対処法を配慮し、実践する。
- ⑥一次救命処置を実践する。
- ⑦二次救命処置の対処法を理解し、必要な場合は二次救命処置を求める（早期通報）。

#### (2) 医療安全・感染予防

### 【一般目標】

円滑な歯科診療を実践するために、必要な医療安全・感染予防に関する知識、態度及び技能を習得する。

### 【行動目標】

- ①医療安全対策について説明する。
- ②アクシデント及びインシデントについて説明する。該当する医療行為があった場合はインシデントレポートを提出する。
- ③医療過誤について説明する。過去の事例について理解する。
- ④院内感染対策（スタンダードプリコーションを含む）を説明する。



⑤院内感染対策を実践する。

### (3) 経過評価管理

#### 【一般目標】

自ら行った歯科治療の経過を観察評価するために、診断及び治療に対するフィードバックに必要な知識、態度及び技能を習得する。

#### 【行動目標】

- ①リコールシステムの重要性を説明する。
- ②歯科治療の結果を評価する。
- ③予後を推測する。

### (4) 予防・治療技術

#### 【一般目標】

歯科医師生涯研修のために必要な専門的知識や高度先進的技術を理解する。

#### 【行動目標】

- ①専門的な分野の情報を収集する。
- ②専門的な分野を体験する。
- ③POS (Problem Oriented System) に基づいた医療を説明する。
- ④EBM (Evidence Based Medicine) に基づいた医療を説明する。

### (5) 医療管理・歯科医師の社会的役割

#### 【一般目標】

適切な歯科診療を行うために必要となる、より広範囲な歯科医師の社会的役割を理解する。

#### 【行動目標】

- ①歯科医療機関の経営管理を説明する。
- ②常に必要な医療情報の収集を行う。
- ③適切な放射線管理を実践する。
- ④医療廃棄物を適切に処理する。

### (6) 地域医療

#### 【一般目標】

歯科診療を適切に行うために、地域医療についての知識、態度及び技能を習得する。

#### 【行動目標】

- ①地域歯科保健活動を説明する。
- ②地域歯科保健活動に参加する。

- ③ 歯科訪問診療を説明する。
- ④ 歯科訪問診療を体験する。
- ⑤ 医療連携を説明する。

(7) 麻酔研修

【一般目標】

歯科診療における安全な全身管理と麻酔の知識を習得する。

【行動目標】

- ① 術前状態の評価を行い、説明する。
- ② 術前回診を適切に行い、必要な場合は専門医に対診する。
- ③ バイタルサインの把握とモニタリングを行う。
- ④ 麻酔方法の選択を説明する。
- ⑤ 麻酔中の合併症への対応を説明する。
- ⑥ 緊急時の気道確保法を説明し、実際に経験する。

14. 指導体制

(1) 歯科医師臨床研修管理委員会

歯科医師臨床研修全般の管理運営、本委員会で立案、作成した歯科医師臨床研修プログラムの管理、研修歯科医の管理と研修状況の評価（中断・修了時の手続き・研修修了判定の評価を含む）、指導歯科医などの管理・指導、歯科医師臨床研修の改善について調査検討する。

委員の構成

|      |        |               |
|------|--------|---------------|
| 委員長  | 野々垣 浩二 | 病院長           |
| 委員   | 今井 隆生  | 歯科口腔外科部長      |
| 委員   | 片浦 貴俊  | 歯科口腔外科医長      |
| 委員   | 竹内 友紀  | 看護部歯科衛生士      |
| 委員   | 朝生 和光  | 事務局長          |
| 外部委員 | 伊藤 暖果  | 名古屋市南区歯科医師会会長 |

(2) プログラム責任者の役割

- ア) プログラム責任者は、2年間を通じて、個々の研修歯科医の指導・管理（研修歯科医の調整、各指導歯科医間の調整など）を担当する。
- イ) プログラム責任者は、医科・歯科指導医と密接な連携をとり、研修歯科医の目標到達状況を適宜把握し、研修歯科医が修了時までには到達目標を全て達成できるように調整を行うとともに、歯科医師臨床研修管理委員会にその状況を報告する。

(3) 指導医・指導歯科医の役割

指導医・指導歯科医は研修期間中、研修歯科医について診療行為も含めて指導を行い、適宜目標達成状況を把握、適宜プログラム責任者に報告する。

(4) 指導歯科医以外の歯科医の役割

上級歯科医は、プログラム責任者及び指導歯科医の指示に従い、研修期間中、研修歯科医の診療行為の指導を行い、プログラム責任者及び指導歯科医に適宜目標達成状況を報告し、研修歯科医の到達目標の修得を助ける。

(5) 指導体制

研修歯科医は指導医の直接的指導の下で研修を行う、あるいは指導医の指導の下で、指導医以外の医師・歯科医とともに診療チームを形成して研修を行う。

各診療科指導責任者及び指導医（指導歯科医） 2021年4月現在

| 診療科名   | 指導責任者（所属長） | 指導医 ※1   |
|--------|------------|--|
| 歯科口腔外科 | 今井 隆生      | 今井 隆生<br>片浦 貴俊                                       |
| 総合内科   | 土師 陽一郎     | 土師 陽一郎<br>小鹿 幸生<br>渡辺 充                              |
| 呼吸器内科  | 沓名 健雄      | 沓名 健雄<br>吉川 公章<br>石原 明典                              |
| 循環器内科  | 近藤 和久      | 近藤 和久<br>林田 竜<br>森田 純生                               |
| 消化器内科  | 西川 貴広      | 野々垣 浩二<br>榊原 聡介<br>西川 貴広<br>柳瀬 成希<br>名倉 明日香<br>柳澤 直宏 |
| 脳神経内科  | 匂坂 尚史      | 匂坂 尚史  |
| 腎臓内科   | 志水 英明      | 志水 英明  |

|            |        |  |
|------------|--------|--|
| 膠原病・リウマチ内科 | 土師 陽一郎 | 土師 陽一郎<br>加藤 瑞樹                                    |
| 糖尿病・内分泌内科  | 寺島 康博  | 寺島 康博<br>岩田 尚子                                     |
| 血液・化学療法科   | 渡会 雅也  | 渡会 雅也  |
| 麻酔科        | 尾上 公一  | 尾上 公一<br>鱸 岳夫<br>長崎 宏則<br>神田 学志<br>三宅 来夢           |
| 救急科        | 矢島 つかさ | 矢島 つかさ<br>川浪 匡史                                    |
| 小児科        | 水野 美穂子 | 水野 美穂子<br>浅井 雅美<br>安井 竜志<br>中嶋 枝里子<br>田村 泉         |
| 産婦人科       | 境 康太郎  | 境 康太郎<br>服部 友香                                     |
| 外科         | 渡邊 克隆  | 松山 孝昭<br>小谷 勝祥<br>松山 孝昭<br>三宅 隆史<br>倉部 亜由美<br>横井 剛 |
| 脳神経外科      | 辻内 高士  | 辻内 高士<br>中島 康博                                     |
| 整形外科       | 篠原 孝明  | 篠原 孝明<br>能登 公俊                                     |
| 皮膚科        | 鶴田 京子  | 鶴田 京子<br>伊佐見 真実子                                   |
| 泌尿器科       | 神谷 浩行  | 神谷 浩行<br>藤井 泰普                                     |
| 耳鼻咽喉科      | 竹内 昌宏  | 竹内 昌宏<br>堀部 兼孝                                     |

|       |       |                |
|-------|-------|----------------|
| 放射線科  | 三田 祥寛 | 三田 祥寛<br>太田 剛史 |
| 病理診断科 | 堀部 良宗 | 小島 伊織          |

※1 指導医：「医師法第16条の2第1項に規定する臨床研修に関する省令の施行について」（平成15年6月12日付け医政発第0612004号通知）におけるプライマリ・ケアの指導方法等に関する講習会受講者（指導歯科医を除く）

## 15. 研修の到達度評価

(1) 個々の項目と到達目標については、研修期間中に随時評価する。

### ア) 研修歯科医の自己評価

各項目における獲得目標の達成度を自己評価する。評価の段階は下記評価表に従って評価する。

＜研修の獲得評価段階表＞

評価段階：到達レベル

S：独立してできる

A：ほとんど独立してできる

B：多くの部分で指導を受けながら、自分でできる

C：手伝えることができる

D：できない

### イ) 指導医としての評価

研修歯科医の行った自己評価の各項目に対して、指導医としての評価を行ない、研修の成果・問題点・注意点を指導医の意見として研修歯科医に伝える。評価の段階は、研修歯科医の自己評価と同様の評価基準とする。

＜研修の獲得評価段階表＞

評価段階：到達レベル

S：独立してできる

A：ほとんど独立してできる

B：多くの部分で指導を受けながら、自分でできる

C：手伝えることができる

D：できない

(2) 研修期間終了時にはその期間の研修の成果・問題点・研修内容への希望と、研修の総括を行う。

ア) 大同病院の歯科医師臨床研修管理委員会は、研修歯科医の研修状況を把握し、指導体制を評価する。

イ) 指導方法と指導内容については、研修歯科医に評価させる機会を設け、研修における問題点について双方で協議し、改善を目指す。

## 【大同病院の概要】

大同病院は急性期医療を通して地域に貢献している名古屋市南部の中核的病院である。救急センターは24時間365日来院する患者の対応をしており、軽症患者から重症患者、心肺停止患者まで様々な症例を数多く扱っている。

病院の外来機能はだいたいクリニックに分離しており、外来化学療法を始め各科の専門的外来治療を行っている。(歯科口腔外科・麻酔科は除く)クリニックに併設された健診センター、予防接種センターでは地域の健康管理に貢献している。さらに訪問看護ステーション、居宅介護支援事務所、老人保健施設を併設しており、多くの高齢者の在宅復帰に貢献している。

1. 第二次救急医療施設
2. 病床数 404 床 (一般 394 床、結核 10 床)
3. 標榜科

内科、血液・化学療法内科、糖尿病・内分泌内科、脳神経内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、内視鏡内科、腎臓内科、腫瘍内科、リウマチ科、小児科、小児アレルギー科、小児科(新生児)、外科、消化器外科、呼吸器・心臓血管外科、乳腺外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、麻酔科(ペインクリニックを含む)、脳神経外科、リハビリテーション科、放射線科、歯科口腔外科、歯科、病理診断科、臨床検査科、人工透析内科、老年内科、救急科、放射線診断科、放射線治療科、精神科、緩和ケア内科、小児外科

### 4. 当院が認定を受けている学会等の教育施設名及び認定名

|                     |                           |
|---------------------|---------------------------|
| 厚生労働省指定基幹型臨床研修病院    | 病院機能評価認定                  |
| 日本内科学会認定医制度教育病院     | 日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設       |
| 日本がん治療認定医機構認定研修施設   | 日本神経学会専門医制度教育施設           |
| 日本呼吸器学会認定施設         | 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設       |
| 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 | 日本高血圧学会専門医認定施設            |
| 日本消化器病学会認定施設        | 日本消化器内視鏡学会認定指導施設          |
| 日本胆道学会認定指導医制度指導施設   | 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設      |
| 日本小児科学会認定専門医研修施設    | 日本アレルギー学会認定教育施設           |
| 日本外科学会外科専門医制度修練施設   | 日本消化器外科学会専門医修練施設          |
| 日本胸部外科学会関連施設        | 呼吸器外科専門医合同委員会関連施設(藤田医科大学) |
| 日本乳癌学会専門医制度認定関連施設   | 日本麻酔科学会認定病院               |
| 日本整形外科学会専門医研修施設     | 日本泌尿器科学会専門医教育施設           |

日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設  
日本気管食道科学会認定気管食道科専門医研修施設（咽喉系）  
日本眼科学会専門医制度研修施設          日本皮膚科学会認定専門医研修施設  
日本病理学会研修認定施設（B）          日本臨床細胞学会認定施設  
日本静脈経腸栄養学会認定N S T稼動施設  
日本栄養療法推進協議会認定N S T稼動施設  
日本糖尿病学会認定教育施設          全日本病院協会災害時医療活動指定病院  
日本リウマチ学会認定教育施設          日本内分泌学会認定教育施設  
下肢静脈瘤に対する血管内レーザー焼灼術の実施基準による実施施設  
日本臨床腫瘍学会認定研修施設          日本感染症学会連携研修施設  
名古屋市歯科医師会医療連携実施協定  
日本口腔外科学会認定研修施設  
日本老年歯科医学会認定研修機関  
日本口腔顔面痛学会研修施設  
日本障害者歯科学会臨床研修施設  
日本口腔ケア学会認定口腔ケア施設  
日本小児口腔外科学会認定研修施設  
日本血液学会認定血液研修施設          日本透析医学会認定教育関連施設  
日本救急医学会認定救急科専門医指定施設          日本肝臓学会関連施設  
日本臨床衛生検査技師会・日本臨床検査標準協議会精度保証認定施設  
日本腎臓学会研修施設          日本医学放射線学会放射線科専門医修練施設  
日本消化管学会暫定処置による胃腸科指導施設          日本膵臓学会認定指導施設  
日本インターベンショナルラジオロジー（IVR）学会認定専門医修練施設